

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 実用新案登録公報 (Y 2) (11) 実用新案登録番号

第2511718号

(45) 発行日 平成 8 年 (1996) 9 月 25 日

(24) 登録日 平成 8 年 (1996) 7 月 9 日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 0 1 K 87/08

A 0 1 K 87/00

6 2 0 D

請求項の数 1 (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願平 4-47952

(22) 出願日 平成 4 年 (1992) 6 月 16 日

(65) 公開番号 実開平 6-3074

(43) 公開日 平成 6 年 (1994) 1 月 18 日

(73) 実用新案権者 000002495

ダイワ精工株式会社

東京都東久留米市前沢 3 丁目 14 番 16 号

(72) 考案者 大山 実良

東京都東久留米市前沢 3 丁目 14 番 16 号

ダイワ精工株式会社内

(74) 代理人 弁理士 越智 俊郎

審査官 星野 浩一

(56) 参考文献 特開 平 2-174624 (J P, A)

実開 平 1-82765 (J P, U)

実開 昭 57-31169 (J P, U)

実開 平 1-90359 (J P, U)

(54) 【考案の名称】 釣竿用キャストイングハンドル

1

(57) 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 リール脚を所定位置に載置してリールを保持するリール脚載置部を上面に形成し、幅方向の中央部が最も低く、その幅方向の両縁部に近づくに従って上方にせり上がる曲面状の下面を有し、前記リール脚載置部の長さ方向略中央より後方部を水平方向に幅広く膨出させて側方膨出部を形成し、該側方膨出部の稜線の後部がトリガーの突出方向とは反対側の上方斜め後方に持ち上がるよう前記側方膨出部を形成しているリール取付部を具備することを特徴とする釣竿用キャストイングハンドル。

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本考案は、リール取付部に特徴を有する釣竿用キャストイングハンドルに関する。

2

【0002】

【従来の技術】 釣人はキャストイングハンドルを有した釣竿を用いて、いずれか一方の手で釣竿の握部を握り、体の後方から前方の所望の位置へ餌を飛ばすキャストイング動作と、そのキャストイングの後に主にリール取付部を把持して釣竿をほぼ水平に保持するパーミングという保持動作とを行う。このうち前者の動作の場合には、釣人はその所望する位置に正確にキャストイングするため振れるようなキャストイング動作を行う場合もあり、釣人の手、特に指先には様々な方向の力が作用する。また後者の場合には、神経を集中させたまま長時間そのパーミングを維持することが有り、そのパーミングの維持が苦痛になることがある。

【0003】 このうち後者のパーミング時の問題解決のために、特開平 2-174624 号公報にはリール取付

3

部の下面の横断面形状が湾曲しており、かつ、その平面視が幅広部分を有した細長い楕円形状を成すように構成することを開示している。

【0004】

【考案が解決しようとする課題】然しながら、上記公報に開示の発明ではパーミング時に最も力の入る手の指先部分のことまでは考慮されておらず、指全体としてのフィット感に主眼をおいたものである。また、上記前者のキャスト時のことを考慮した発明でもない。従って、キャスト時の把持の安定性や、パーミング時の指先の安楽感には改良すべき点を有している。

【0005】依って本考案は、キャスト時の把持が安定しており、パーミング時にフィット感が得られると共に指先の安楽感も得られるリール取付部を有したキャストハンドルを提供を目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記目的に鑑みて本考案は、リール脚を所定位置に載置してリールを保持するリール脚載置部を上面に形成し、幅方向の中央部が最も低く、その幅方向の両縁部に近づくに従って上方にせり上がる曲面状の下面を有し、前記リール脚載置部の長さ方向におおむね中央より後方部を水平方向に幅広く膨出させて側方膨出部を形成し、該側方膨出部の稜線の後部がトリガーの突出方向とは反対側の上斜め後方に持ち上がるよう前記側方膨出部を形成しているリール取付部を具備することを特徴とする釣竿用リール取付部を提供する。

【0007】

【作用】幅方向の中央部が最も低く、その幅方向の両縁部に近づくに従って上方にせり上がる曲面状の下面とリール脚載置部の長さ方向略中央より後方部を水平方向に幅広く膨出させた側方膨出部とによってパーミング時に指全体としてのフィット感が得られ、この側方膨出部の稜線後部がトリガーの突出方向とは反対側の上斜め後方に持ち上がるよう側方膨出部が形成されているため、該側方膨出部はリール脚載置部に載置保持されたリールの外周形状に沿っており、このため側方膨出部とリールとの隙間があまり大きくはならず、パーミング時にリール取付部の下面を介してリールの外周部に当接する指先がその隙間に挟まることがなく、指先が痛くなることがない。更に、幅広く形成された側方膨出部の後部は上斜め後方に傾斜しており、トリガーとの間に指の入る隙間が形成されている。従って、キャスト時に最も力の入る人差指の指先部がその隙間に充分にホールドされる。

【0008】

【実施例】以下、本考案を添付図面に示す実施例に基づき、更に詳細に説明する。図1は釣竿用キャストハンドル側面図、図2は平面図、図3は図2の矢視線C-Cによる横断面図であり、図4は図2の矢視線D-Dによる横断面図である。この図1から図4を参照しな

4

がら、本考案の好適な実施例としてのリール取付部14の形態につき説明する。

【0009】竿管12の後部は前握部18とリール取付部14とを貫通して後握部16にまで達している。この前握部18とリール取付部14と後握部16と竿管12の後部とによってキャストハンドルを形成している。リール取付部14と後握部16と竿管12の後部とは一体化されており、一方、前握部18は、その内部に設けられた螺子部（図示せず）とリール取付部前部に設けられた螺子部（図示せず）との螺合によってリール取付部14上に載置したリール10のリール脚10Aをリール取付部14上の所定位置に保持固定しつつ、該リール取付部14に対して固定される。

【0010】上記リール取付部14の上面にはリール10のリール脚10Aを載置するためのリール脚載置部22が形成されており、その長さ方向の後部にリール脚10Aを受け入れるための後部リール脚受入部26を形成しており、また前方には、リール脚載置部22と上述の前握部18との間の隙間24を前部リール脚受入部24として構成している。これらのリール脚受入部24、26にリール脚10Aを挿入し、前握部18を回動させてリール10をリール取付部14の所定の位置に保持固定させると、図2、図4、図5、図6に示すような取付状態となる。

【0011】リール取付部14の平面視は図2のごとくであり、その前部から漸次その幅を広げ、後部下面側に形成されているトリガー20の位置辺りまでその幅の漸増が続いて側方膨出部28を形成し、その後は後握部16に滑らかに接続させるべくその幅を狭めている。従って、リール脚載置部22の長さ方向略中央位置であるリール10の長さ方向の中央位置P1よりも後方部は、請求項1に記載の通り幅広い側方膨出部28が形成されている。従って、パーミング時に最も力の入る中指と薬指とが把持する領域を最も広くしているのである。

【0012】このリール取付部14の下面14Sの形状は図3や図4に示す如くであり、リール取付部14の幅方向の中央が最も低く、両縁部に近づく程せり上がった曲面形状をしている。この形状は、釣人の手の指による該リール取付部14とリール10との保持に際して、指の曲がり形状に無理がなく、好適である。即ち、リール取付部14の下面14Sの曲率が、図4に示す想像線L1のようにリール10の外周縁部の辺りに至ることが望ましい。また、リール取付部14の幅は、リール10の幅に対して図4に示す程度の幅寸法であれば、指の先端が該リール取付部14とリール10との隙間に挟まれることもなく、かつ、リール取付部14とリール10との両部材を同時に保持することも容易となり、従って、パーミング時に疲れず、好ましい。

【0013】なお、図3や図4においては、リール取付部14の下面14Sの最下端部は竿管12の一部12P

5

が露出しているが、これは魚振を指に直接伝達するためである。このため、リール取付部 1 4 は図 1 に示すように、その長さ方向の下面 1 4 S の中央位置部が下方に凸に形成されていると共に、その前後が凹状に形成されている。

【0014】このようにリール取付部 1 4 は、その下面 1 4 S の長さ方向形状を中弛みに形成し、その上面がリール脚載置部 2 2 に載置固定されたリール 1 0 の外周と干渉しないように、上述の側方膨出部 2 8 をリール取付部 1 4 の長さ方向中央位置付近から後方にかけて、その稜線 2 8 L を少し下側へ逃げるように形成している。しかし、取付対象とするリールの形状によってはその稜線 2 8 L を水平に形成することもできる。

【0015】更には、上記稜線 2 8 L の後方は、トリガー 2 0 とは反対の上側方向であって、斜め後方に持ち上げて形成されている。その持ち上げ方向は、取り付けられたリール 1 0 の外周形状を考慮し、そのリール外周に干渉しないようリール 1 0 から少し離れた位置でリール 1 0 の外周形状に沿う方向としている。この側方膨出部 2 8 の稜線 2 8 L とトリガー 2 0 との間の領域 A R にはこの稜線方向に沿って滑らかに凹みが形成されている。

【0016】以上説明した形状、構造のリール取付部 1 4 を使用した釣竿用キャストハンドルの用いたパーミングとキャスト時の把持状態を図 5 と図 6 を参照しながら説明する。図 5 はパーミング状態を示す図であり、親指 F 1 によってリール 1 0 の上面を押さえ、通常、小指 F 5 をトリガー 2 0 の後ろに位置させて、人差指 F 2、中指 F 3、薬指 F 4 をトリガー 2 0 よりも前に位置させ、リール取付部 1 4 とリール 1 0 とを把持している。既述の如く、リール取付部 1 4 の下面 1 4 S の形状は図 4 の如きであるため把持時に指のフィット感が得られる。更に、側方膨出部 2 8 の後部がリール 1 0 の外形形状に沿っているため、リール 1 0 とリール取付部 1 4 との間に大きな隙間を生ずることはない。従って、パーミング時に最も力が入る指先部分が両者の隙間に挟まったりせず、指先に痛みを感じることがないために長時間のパーミングが容易になる。また、上記領域 A R の凹みの方向が、パーミング時に力が入る薬指 F 4 や中指 F 3 の自然な把持方向と一致しているため、力を入れて長時間把持していても疲れにくい。

【0017】図 6 はキャスト時の把持状態を示す

6

図であり、通常のキャスト時には、この図のようにトリガー 2 0 の後ろに中指 F 3、薬指 F 4、小指 F 5 を配し、人差指 F 2 をトリガーの前に配する持ち方が行われる。このキャスト時に最も力が入る人差指 F 2 の指先部は、図 6 に示す様に斜め後方に向くが、既述のトリガー 2 0 と側方膨出部 2 8 の稜線 2 8 L との間の該稜線に沿った凹みに当該指先部が十分にホールドされるため、キャスト時に指 F 2 の受ける様々な方向の力にも充分に打ち勝つことができる。従って、意図した所へ正確にキャストすることができる。

【0018】

【考案の効果】以上の説明から明らかなように本考案によれば、キャスト時の把持が安定しており、パーミング時にフィット感が得られると共に指先の安楽感も得られるリール取付部を有したキャストハンドルの提供が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】図 1 は本考案に係るキャストハンドルの側面図である。

【図 2】図 2 は図 1 の矢視線 B による平面図である。

【図 3】図 3 は図 2 の矢視線 C-C による横断面図である。

【図 4】図 4 は図 2 の矢視線 D-D による横断面図である。

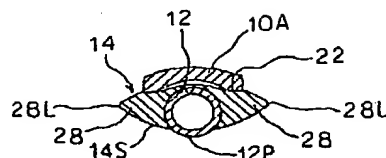
【図 5】図 5 は本考案に係るキャストハンドルの把持したパーミング状態の説明図である。

【図 6】図 6 は本考案に係るキャストハンドルの把持したキャスト状態の説明図である。

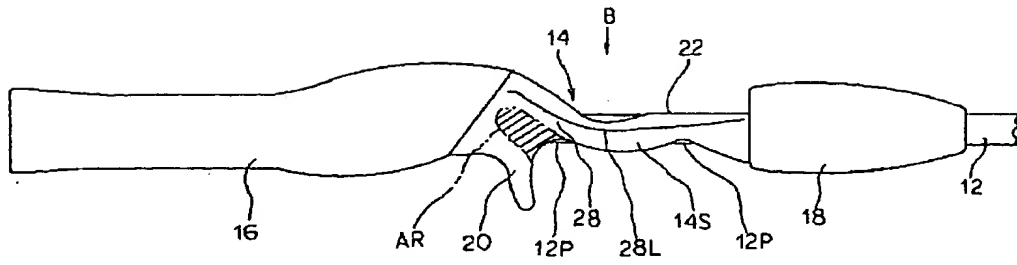
【符号の説明】

1 0	リール
1 0 A	リール脚
1 2	竿管
1 4	リール取付部
1 4 S	リール取付部下面
1 6	後握部
1 8	前握部
2 0	トリガー
2 2	リール脚載置部
2 8	側方膨出部
2 8 L	稜線
A R	トリガーと稜線との間の凹み

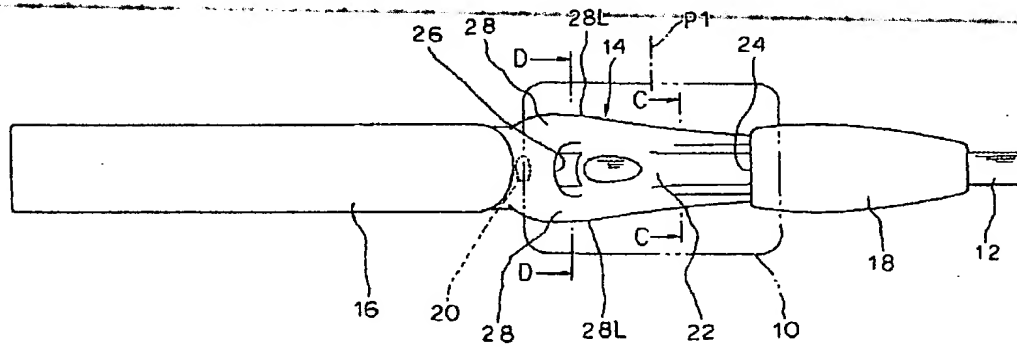
【図 3】



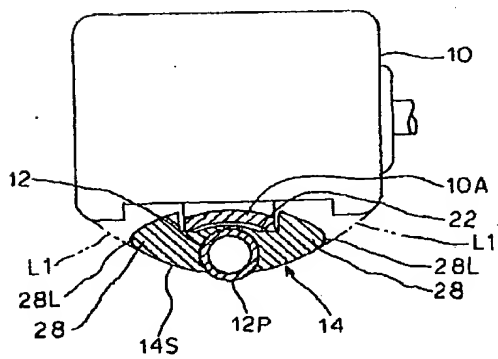
【図 1】



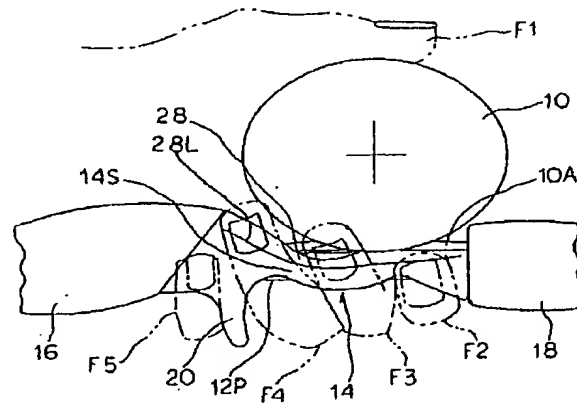
【図 2】



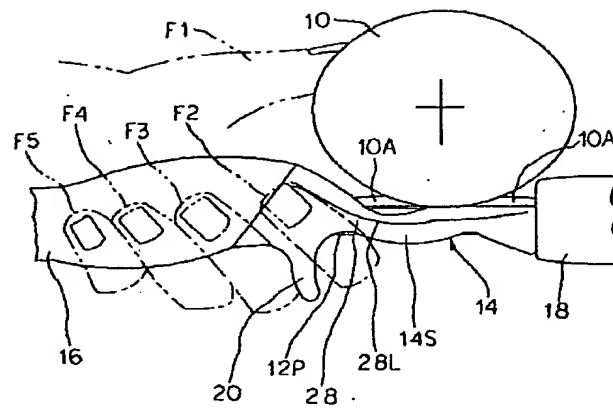
【図 4】



【図 5】



【図6】



THIS PAGE BLANK (USPTO)